

2026.2.17

資料3
科学技術・学術審議会
産業連携・地域振興部会
(第13回)
R8.2.17

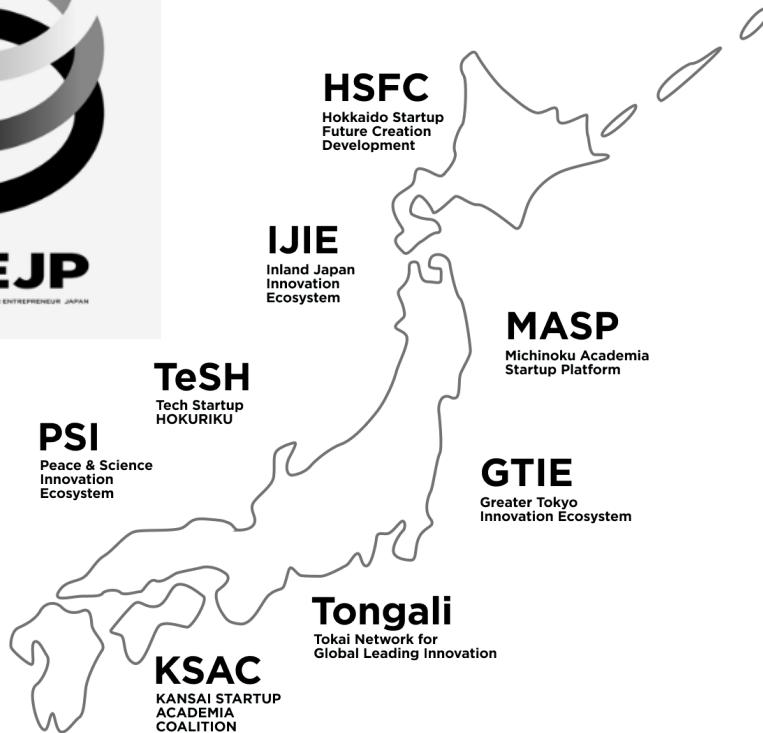
大学発新産業創出基金事業 - スタートアップ・エコシステム共創プログラム - 全国ネットワーク構築支援（NINEJP）の概要と意義

もくじ

1. NINEJPの事業とは
2. NINEJPの活動概要
3. 今後の方向性とエコシステム形成・自立化に向けた課題
4. 形成したエコシステムから大学に還元されるしくみの構築
5. 結論

もくじ

1. NINEJPの事業とは
2. NINEJPの活動概要
3. 今後の方向性とエコシステム形成・自立化に向けた課題
4. 形成したエコシステムから大学に還元されるしくみの構築
5. 結論



「つながり」と「見える化」で、未来を共創する

NINEJPは、全国9拠点の大学発スタートアップ支援プラットフォームが連携し、日本全体でグローバルに通用する事業を生み出すことを目的としたイノベーションエコシステムです。

全国160以上の大学や研究機関だけでなく幅広いステークホルダーと「つながり」、その多様な観点から各拠点で育まれている技術シーズの価値と可能性を「見える化」することで、社会課題解決へのビジネスアイデアへと磨き上げます。



<https://ninejp.org/ja>

スタートアップ・エコシステム共創プログラムの参画大学等

※R7.4.28時点

	HSFC (北海道)
1	北海道大学
2	公立はこだて未来大学
3	小樽商科大学
4	北海道情報大学
5	室蘭工業大学
6	北見工業大学
7	札幌医科大学
8	北海道科学大学
9	旭川医科大学
10	帯広畜産大学
11	北海道医療大学
12	旭川市立大学
13	北星学園大学
14	苫小牧工業高等専門学校
15	函館工業高等専門学校
16	旭川工業高等専門学校
17	北海道科学技術総合振興センター

	MASP (東北)
1	東北大
2	弘前大学
3	秋田大学
4	岩手大学
5	山形大学
6	福島大学
7	新潟大学
8	宮城大学
9	長岡技術科学大学
10	会津大学
11	東北芸術工科大学
12	秋田県立大学
13	岩手県立大学
14	東北学院大学
15	福島県立医科大学
16	八戸工業高等専門学校
17	秋田工業高等専門学校
18	一関工業高等専門学校
19	鶴岡工業高等専門学校
20	仙台高等専門学校
21	長岡工業高等専門学校
22	福島工業高等専門学校
23	東北大学ナレッジキャスト株式会社
24	東北大学共創イニシアティブ 株式会社

	GTIE(関東)
1	東京科学大学
2	東京大学
3	早稲田大学
4	慶應義塾大学
5	東京農工大学
6	神奈川県立保健福祉大学
7	横浜市立大学
8	筑波大学
9	千葉大学
10	東京都立大学
11	芝浦工業大学
12	東京理科大学
13	茨城大学
14	電気通信大学
15	東海大学
16	横浜国立大学
17	理化学研究所

	KSAC (関西)
1	京都大学
2	大阪大学
3	大阪公立大学
4	関西大学
5	近畿大学
6	立命館大学
7	大阪工業大学
8	神戸大学
9	兵庫県立大学
10	関西学院大学
11	奈良先端科学技術大学院大学
12	京都工芸繊維大学
13	京都府立大学
14	同志社大学
15	龍谷大学
16	京都先端科学大学
17	京都府立医科大学
18	奈良女子大学
19	奈良県立医科大学
20	滋賀大学
21	滋賀医科大学
22	京都産業大学
23	大阪産業局
24	株式会社 産学連携研究所

参画機関
(計：162大学等)

太字：主幹機関
細字：SU創出共同機関

	PSI (中四国)
1	広島大学
2	県立広島大学
3	広島市立大学
4	叡智大学
5	島根大学
6	岡山大学
7	愛媛大学
8	高知大学
9	徳島大学
10	香川大学
11	鳥取大学
12	広島修道大学
13	安田女子大学
14	岡山理科大学
15	川崎医科大学
16	周南公立大学
17	高知工科大学

	PARKS (九州・沖縄)
1	九州大学
2	九州工業大学
3	福岡大学
4	久留米大学
5	九州産業大学
6	第一薬科大学
7	福岡工業大学
8	北九州市立大学
9	長崎大学
10	熊本大学
11	九州歯科大学
12	長崎総合科学大学
13	大分大学
14	宮崎大学
15	佐賀大学
16	鹿児島大学
17	琉球大学
18	山口大学
19	立命館アジア太平洋大学
20	沖縄科学技術大学院大学
21	九大OIP株式会社
22	株式会社FFGベンチャービジネス パートナーズ

NINEJPの「つなげる」：9つのアクション

1.拠点内をつなげる

— 各拠点の大学・研究者・支援者を結ぶ

2.拠点間をつなげる

— 地域を越えて知と資源を共有

3.海外とつなげる

— 世界の拠点と連携し、共創を促進

4.デジタルでつなげる

— プラットフォームとツールでネットワークを強化

5.データでつなげる

— 研究・人材・投資情報を統合・活用

6.リアルの場でつなげる

— カンファレンスやキャラバンで信頼を築く

7.つながりから機会を生み出す

— 交流を通じて連携・成長のチャンスを拡大

8.つながりから投資を呼び込む

— ネットワークが資金を呼び、加速を支える

9.つながりから新たな価値を創造する

— 共創によって未来の産業を育てる



もくじ

1. NINEJPの事業とは
2. NINEJPの活動概要
3. 今後の方向性とエコシステム形成・自立化に向けた課題
4. 形成したエコシステムから大学に還元されるしくみの構築
5. 結論

全体概要

項番①【各プラットフォームの特色の明確化と、それを踏まえた全国的なスタートアップ創出支援ネットワークの構築】 (B:本事業における新規施策)

全国ネットワーク事業全体の方針を議論するための戦略会議のとりまとめを行うとともに、各プラットフォームの個別事業のKPI管理と評価を行う。各拠点のスタートアップに対してはデザインチームによる各プラットフォームのスタートアップ案件の見える化を行い、必要な資源との接続機能を有するコネクトキャラバンが巡回することによって、各プラットフォームの特色あるスタートアップチームを国内外に発信する。この際本事業全体のブランディングも試みる。

項番①【全国カンファレンスの実施】 (A:従来の全国レベル会議の抜本的強化)

各プラットフォームから起業を目指す研究シーズと、事業化推進機関や事業会社等とのマッチングイベントを開催する。

項番②【海外拠点の高度活用】 (A:従来各機関で個別に取り組んできた施策の抜本的強化と全国展開)

海外拠点の高度活用を通じて、グローバル展開が期待できる全国のプレシード及び設立中のスタートアップが、海外の事業会社との事業提携や海外投資家からの投資を受けるための共通支援機能を構築・整備し、各プラットフォームに向けたグローバル支援展開を行う。

項番③【起業を目指す研究シーズの情報共有の仕組みの構築・維持管理】 (A:従来特定拠点で試みていたデータベース事業の全国展開)

GAPファンドプログラムの支援の基盤となるデータベースを構築する。具体的にはスタートアップ起業に有望な研究シーズDBとしてつなわち全国の各プラットフォームにおける、特許、論文、競争的資金等の情報および網羅的分析（人的ネットワーク分析を含む）を行い、各プラットフォームで実施しているGAPファンドプログラムで採択されたチームの研究シーズ情報を全国一つの共有プラットフォームに集約してウェブ上で公開する。あわせて起業のためのインテグリティの提案を行う仕組みを構築する。

項番④【事業化を支援する人材に関する情報共有や育成の仕組みの構築・維持管理】 (B:本事業における新たな取り組み)

各拠点のURA等の人材に加え、提携企業からの出向を含む起業支援候補人材の研修の仕組みを構築する。提携企業については事業目的をよく理解しパートナーシップを構築できる企業を選抜し、協定を締結したうえで、出向などの形で派遣を受ける。拠点の中心的な大学へ配置し、各拠点、各大学の起業支援の現場にて起業支援を実施し、モデルケースを構築するとともに、企業と大学間の協定締結に必要な基本協定や契約書の雛形提供等の支援を行い、大学と企業間の人材流動による起業支援人材の育成と流動化の仕組みを構築する。

項番⑤【経営者候補人材に関する情報共有の仕組みの構築・維持管理】 (A:従来特定機関で個別に取り組んできた施策の抜本的強化と全国展開)

各プラットフォーム・全国版経営者候補人材（プレCXO）のデータベース構築を行う。そのため現時点で各プラットフォームにある経営者候補人材のデータベース登録を行い、プラットフォームごとに経営者候補人材の募集及びマッチングサポートを実施する。各プラットフォーム・全国版プレCXOデータベースの活性化のためにCXO向けイベント企画・運営する。

項番⑥【プラットフォーム内外のコミュニティ形成・維持】 (A:従来各機関で個別に取り組んできた施策の抜本的強化と全国展開)

各拠点をベースとしたコミュニティ創生と、それぞれのプラットフォームのコミュニティ間の交流や拡大を支援する。後者については国内外のスタートアップ支援者、起業家ネットワークとの接続を図ることによって、多様でグローバルな起業につながるコミュニティの創生を目指す。

項番⑦【ワンストップ窓口（コンシェルジュ）機能】 (B:本事業における新規施策)

創業期の啓発・支援を行うことで、健全なスタートアップ・エコシステムの形成を促進し、スタートアップのグローバルな発展を後押しするための専門家組織をGTIEに設け、東京都の運営するTiBと連携することによってワンストップ窓口を構築する。

項番⑧【全国ネットワークの自立化可能性の検討】 (B:本事業における新機施策)

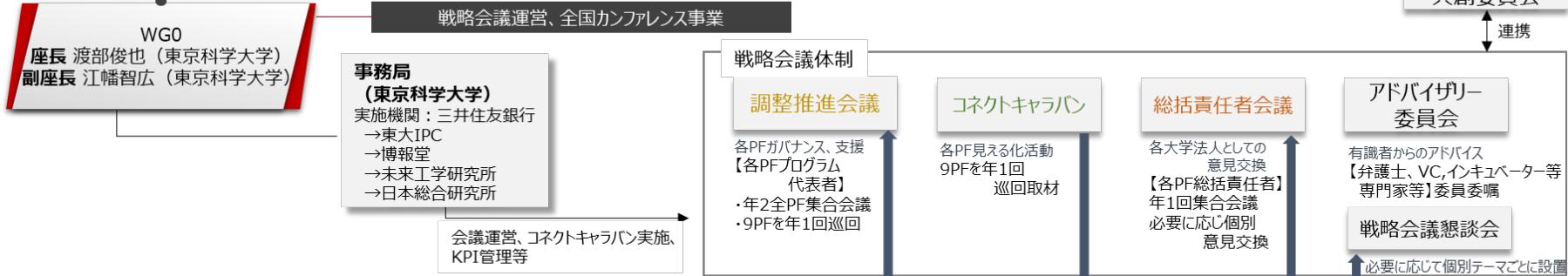
個々のWGごとに事業の自立化の検討を求めるのとともに、事業全体の自立化の検討は、当初から共同実施機関と事業を進めることや、JSTの情報基盤との接続を図ること、また地域のコミュニティの発展を促し、自律的な事業継続を推進する。

NINEJPの実施体制 (WGと項番との関係)

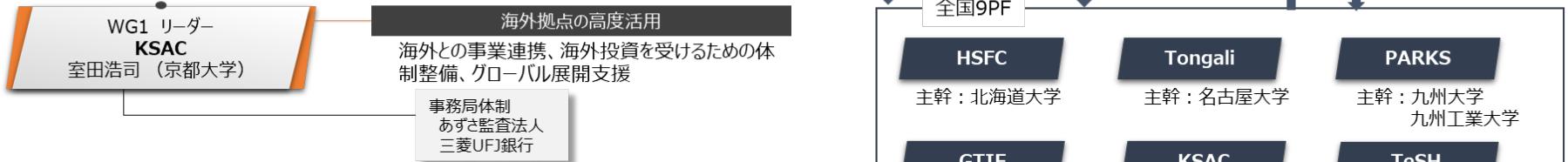
※⑧は全WG・拠点が担当

担当項番

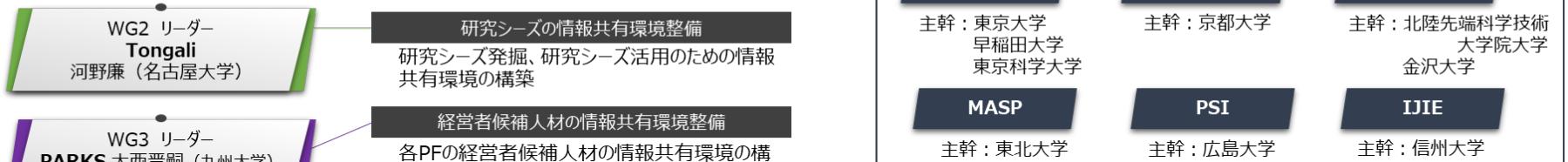
①



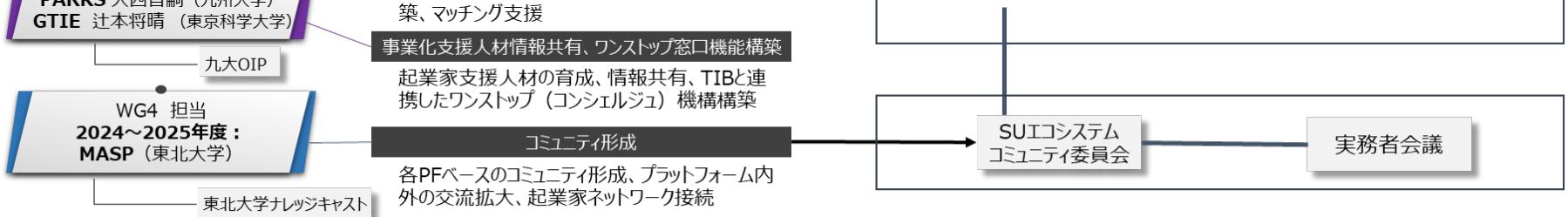
②



③



④⑤⑦



4. スケジュール

取組事項	担当	2024年度	2025年度		2026年度		2027年度	
		10-3月	4-9月	10-3月	4-9月	10-3月	4-9月	10-3月
①各PFの特色の明確化と、それを踏まえた全国的なSU創出支援ネットワークの構築	WGO (戦略会議)	総括責任者会議	調整推進会議(集合)	総括責任者会議 調整推進会議(集合)	調整推進会議(集合)	総括責任者会議 調整推進会議(集合)	調整推進会議(集合)	総括責任者会議 調整推進会議(集合)
①全国カンファレンスの実施	WGO,WG4		SusHi Tech Tokyo ⇒東京都と連携へ	全国カンファレンス * BioJapan	全国カンファレンス * SusHi Tech Tokyo	全国カンファレンス * BioJapan	全国カンファレンス * SusHi Tech Tokyo	全国カンファレンス * BioJapan
②海外拠点の高度活用	WG1	海外拠点順次拡大 グローバルイベント順次開催	Bio International Global Startup EXPO等	BioJapan等				→自立化ステージに移行
③起業を目指す研究シーズの情報共有の仕組みの構築・維持管理	WG2	01有望シーズDB構築 02研究シーズDB構築 03インテグリティ教育	02:提供価値の検討 03:ガイドライン作成	02:システム企画検討 03:システム要件定義 03:eラーニング開発・研修会	02:システム開発 03:eラーニング開発・研修会	02:システム開発		
④事業化を支援する人材に関する情報共有や育成の仕組みの構築・維持管理	WG3	01検討体制の確立 02企業人材の流動化 03大学URA等の育成	01:コンソーシアム設立 02:モデルケースの計画 03:現状把握と課題整理	01:コンソーシアム運営 02:モデルケース実践 03:計画検討	取組みの拡大			評価及び自立化
⑤経営者候補人材に関する情報共有の仕組みの構築・維持管理	WG3	準備	DBの運用開始	募集からマッチングまで(第1回)		募集からマッチングまで(第2回)		募集からマッチングまで(第3回)
⑥PF内外のコミュニティ形成・維持	WG4			広報ミートアップ (2026.2予定)	広報ミートアップ		広報ミートアップ	
⑦ワンストップ窓口(コンシェルジュ)機能	WGO,WG3	TiB拠点設置準備(東京都折衝)	窓口開設の準備	窓口の開設(試用)	窓口の本格運用	自立化構想検討		評価及び自立化
⑧全国ネットワークの自立化可能性の検討	WGO～WG4	当初案の把握		自立化案の検討				自立化ステージに移行

項目① 各PFの特色の明確化と、それを踏まえた全国的なSU創出支援ネットワークの構築

各項目との連携を図り、全体目標に向けた管理とともに、拠点連携による見える化、分野別横ぐしにより、事業を促進する。

■ 戦略会議

総括責任者会議、連携懇談会 KPI：年1回以上

総括責任者 及び 座長にて意見交換 及び 重要事項の意志決定を行った。
同日午後の連携懇談会では、経産省、東京都、WEAT、LINK-J、cross U
と意見交換を行い、今後の連携に前向きな回答を頂いた。 (2025.2.10)
2025年度は、2026年2月に会議と連携懇談会を実施。 (2026.2.18)

調整推進会議（PF集合） KPI：年2回

- FY2024：プログラム代表者 及び 座長にて、2024年度の事業報告の共有、2025年度の事業計画を審議。 (2025.3.25)
- FY2025：プログラム代表者 及び 座長にて、2025年度の進捗報告と、インパクト創出に向けた取り組み促進について協議。 (2025.9.17)
- FY2025の第二回は、2026年1月に実施。 (2026.1.23)

コネクトキャラバン／調整推進会議（PF個別） KPI：9拠点年1回

実施項目の推進状況の確認、課題の把握と対応策に関する検討を行い、必要な資源との接続など、事業全体をふまえた最適化を行う。

- MASP(2/8, 8/22)、Tongali(4/23)、PARKS(5/20)、KSAC(7/28)、
PSI(8/6)、IJIE(10/23)、TeSH(11/14)、GTIE(2026/1/13)



VISUALIZE

動画やWEBコンテンツなどのビジュアルストーリーテリングを通じ、GAPファンドのテーマを発信。

また、技術シーズに対してデザインアプローチを活用することで、社会的意義の再定義やビジネス上の重要性を際立たせ国内外にアピールします。



NINEJP presents GAME CHANGERS

河村 希典 | 秋田大学



NINEJP presents GAME CHANGERS

岩谷 素顕 | 名城大学

TOPICS



2026-01-27

EVENT

【PARKS主催】PARKS DEMODAYのご案内



2026-01-26

EVENT

【IJIE主催】IJIE DEMODAYのご案内



2026-01-23

EVENT

【MASP主催】MASP DEMODAYのご案内



2026-01-22

EVENT

【IJIE主催】IJIE DeepTech Receptionのお知らせ



2026-01-21

EVENT

【1/22開催】第2回 NINEJP ウェビナー：日本のスタートアップがNYCで成功する心構え



2026-01-13

EVENT

NINEJP、GTIEを訪問(コネクトキャラバン/調整推進会議)



2026-01-05

EVENT

【Tongali共催】～スタートアップ・インテグリティ推進シンポジウム～スタートアップ・インテグリティガイドライン全国...



2025-12-18

NEWS

Nature オンライン版に、記事広告「Could cancer-attacking bacteria offer a new way to treat tumours?」が掲載...



2025-11-14

EVENT

NINEJP、TeSHを訪問(コネクトキャラバン/調整推進会議)



2025-11-13

NEWS

KSAC Rhinoflux社 リスボン Web Summit ピッチ大会にて優勝



2025-10-23

EVENT

NINEJP、IJIEを訪問(コネクトキャラバン/調整推進会議)



2025-10-20

NEWS

BioJapan 2025において、NINEJPがピッチ＆マッチングカンファレンスを開催

- ✓ 各拠点PFと連携の上、集中支援先の案件数の拡大と多角的な支援（質の向上）を目指す

● 目的

- ・ 全国の有望な研究シーズ（研究者）を構造的に可視化し、本活動を通じ、社会との接続（対外的発信・社会実装）を支援
- ・ NINEJPと各拠点PFの持つリソースを融合し、研究シーズ（研究者）の課題解決に資する各種支援を提供

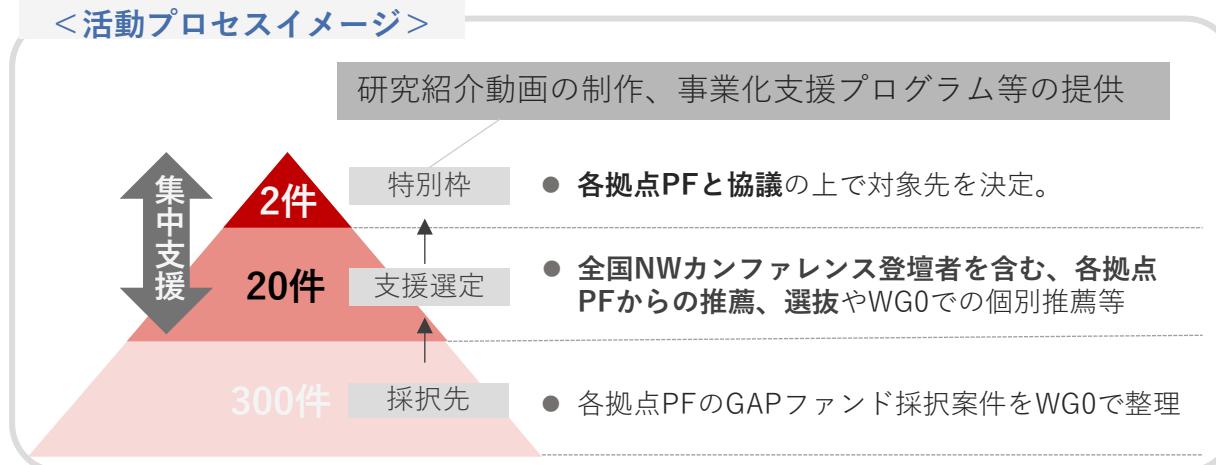
1 シーズ選定

- ・ 各拠点PFからの推薦枠を設置し、対象数を増加
- ・ これまでの各種活動実績を踏まえ、NINEJPによる声掛けも実施

2 シーズ支援

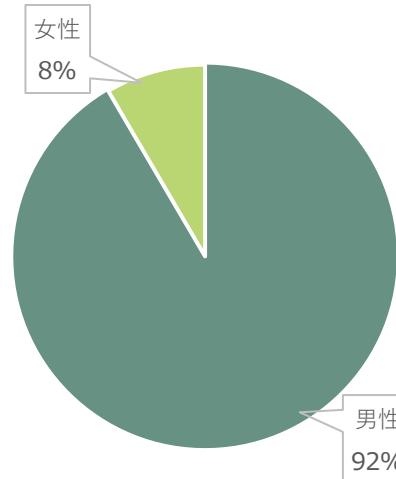
- ・ シーズ（技術概要・現状ステータス）の見える化
 - 独自の見える化シートによる研究シーズの可視化・情報整理
- ・ 事業会社・投資家とのマッチング
 - ニーズ探索を目的とした研究シーズ（研究者）とのマッチング

<活動プロセスイメージ>



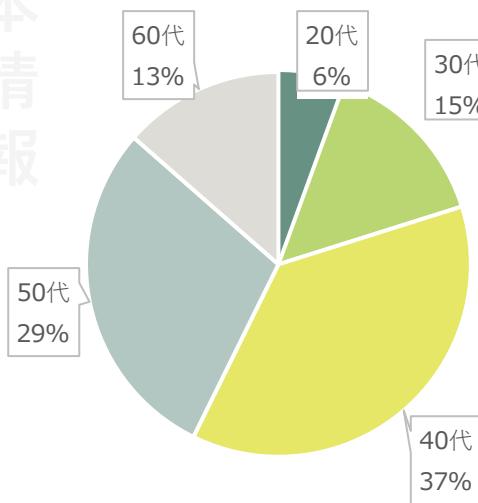
- 2024年度GAPファンド採択案件（研究代表者）の基本情報を集計した結果は以下の通り。

男女比



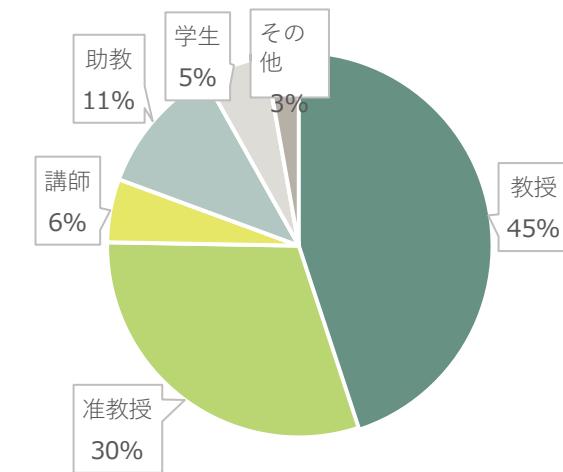
性別	合計
男	326
女	30

推定年齢層



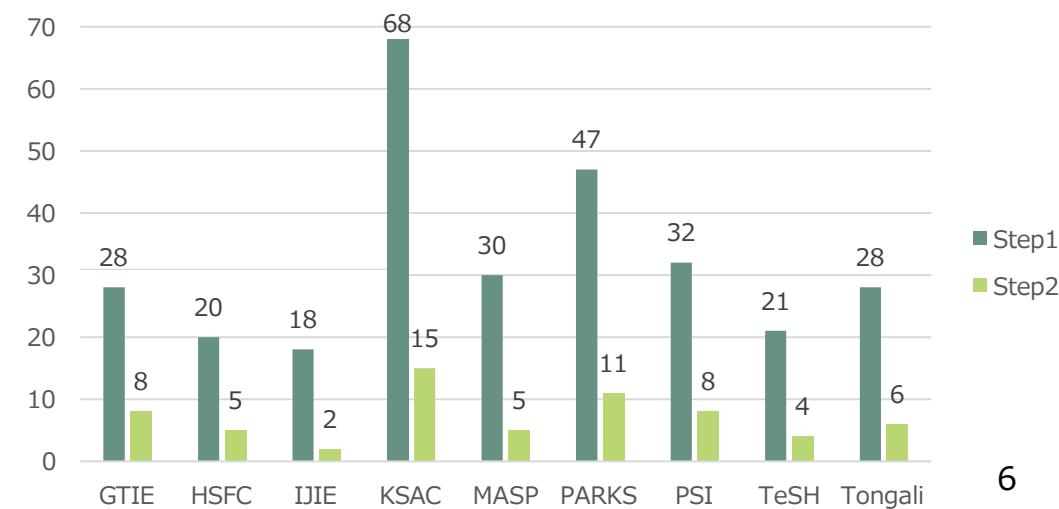
年代	合計
20代	16
30代	40
40代	103
50代	82
60代	37

職位



肩書	合計
教授	160
准教授	108
講師	19
助教	40
学生	19
その他	10

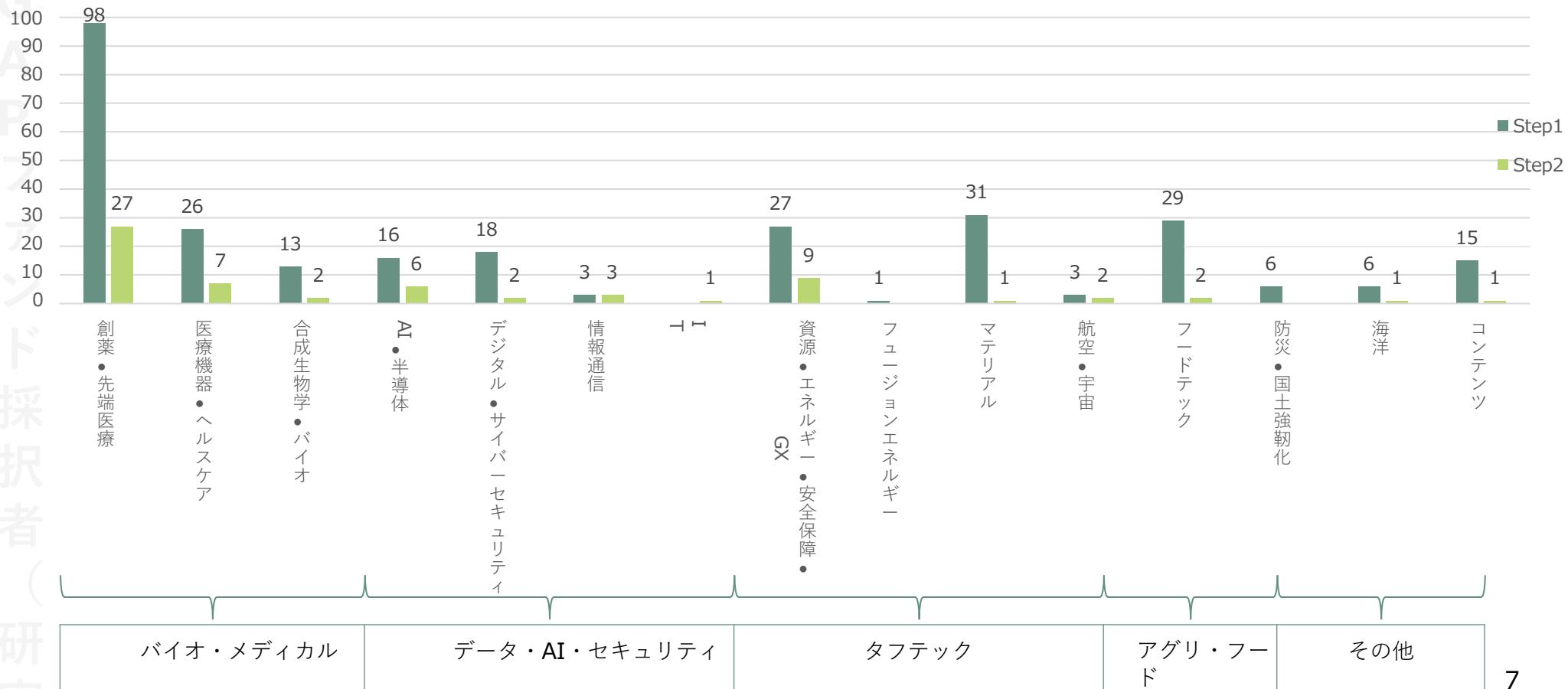
PF別採択案件件数



- 17の政府重点投資分野を基準に各案件・研究者情報より推定。
- 創薬・先端治療分野が最多（125件）、医療機器・ヘルスケアも含めると全体の44%を占める。

事業領域別のGAPアンド件数

注：集計はwebサイト等の公開情報をベースに独自に算出



項目① 全国カンファレンスの実施

項目①推進 戦略会議事務局／WG0

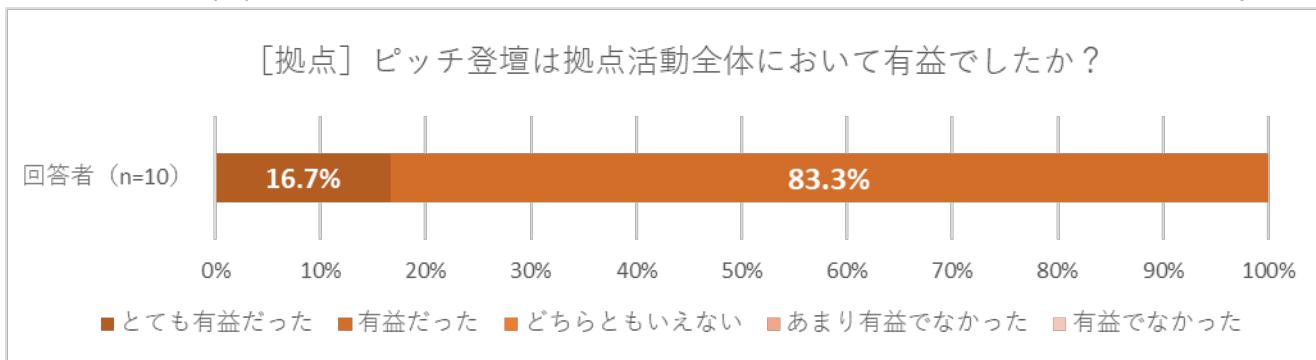
情報共有とマッチングなどによるコミュニティ創生を目的とする全国カンファレンスおよびグローバルマッチングを実施。

■全国カンファレンスの実施

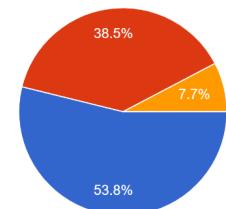
KPI：2025年度は1回、2026年度以降は年2回の開催

2025年度 第1回 全国カンファレンス

- BioJapan@横浜にて、全国カンファレンスとして、**全国9拠点のシーズ及びスタートアップの代表チームを公募し、ピッチとマッチングのイベント（英語）を開催。**
- 候補者はメンタリング（事業内容とプレゼン）を行い、代表チームの紹介を拠点の代表者が行う形式をとった。
- 当日の参加登録者は400名（外国籍比率 30%）
- シーズ部門の優勝者：**
TeSH 北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) 教授 都英次郎
- スタートアップ部門の優勝者：**
PSI 株式会社PURMX Therapeutics CEO/代表取締役社長 田原栄俊

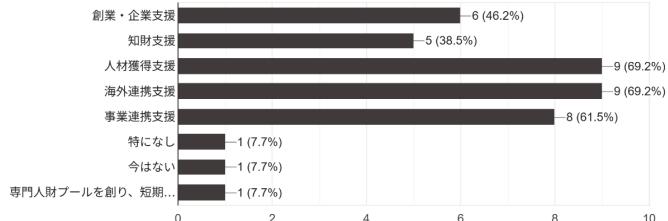


⑤【全員】ピッチ登壇はご自身にとって有益でしたか？



⑯【全員】今後の活動：NINEJPからの支援についてご要望はありますか？ ※複数回答可
13件の回答

- とても有益だった
- 有益だった
- どちらともいえない
- あまり有益でなかつ
- 有益でなかつ



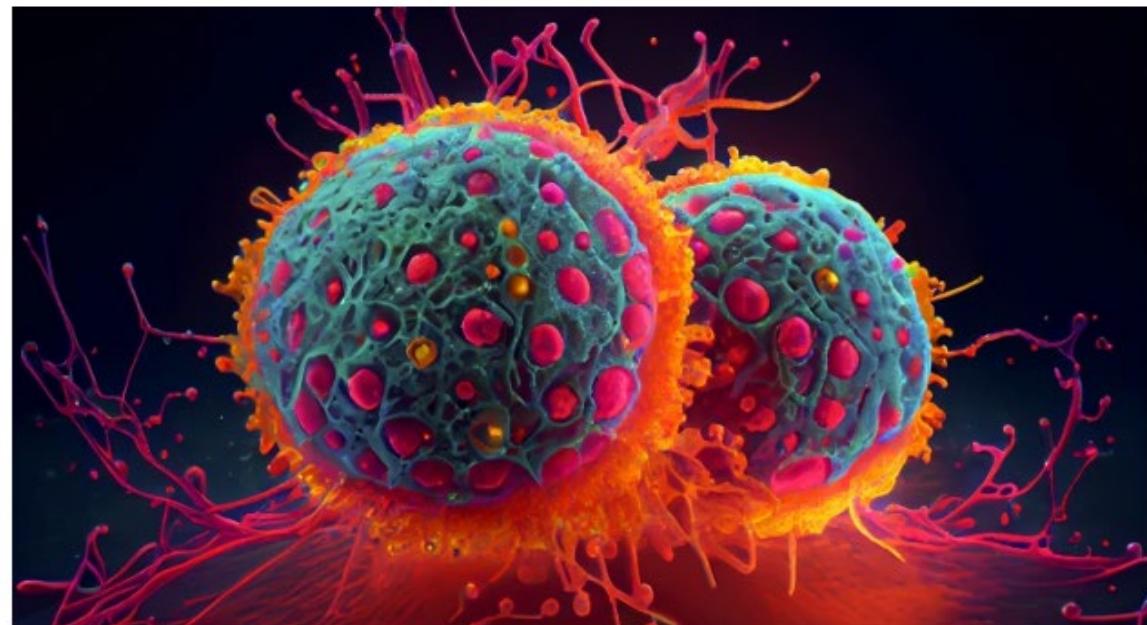
PARTNER CONTENT Partner retains sole responsibility for the content of this article

Could cancer-attacking bacteria offer a new way to treat tumours?

Unusual microbes that strike cancerous tumours, and microRNAs that make cancer cells vulnerable, are among the topics of ambitious bioscience projects being explored in Japan.

Produced by

nature
custom media



An artist's impression of cancer cells. A combination of two different bacteria might allow scientists to attack tumours. Credit: Kateryna Kon/Shutterstock

The experiment should have been an exercise in futility. Bioengineer Eiji Miyako had isolated two species of bacteria, one of which sometimes colonizes tumorous tissues, and used them in an attempt to stimulate an immune reaction in cancer-afflicted mice. These mice had compromised immune systems from prior treatments, so he wasn't expecting it to work. But contrary to all expectations, the tumours in the mice didn't just diminish, they vanished¹.

<https://www.nature.com/articles/d42473-025-00331-3>



東京都主催の **SusHi Tech Tokyo 2026** (4月27~29)において、「AI、データ、デジタル」をテーマに以下の取り組みを推進する予定：

■全国の拠点代表チームの英語ピッチカンファレンス（シーズ、スタートアップ）：審査員は半数が海外VC

■全国の拠点から生まれたシーズとイノベーションの展示

→全国拠点からのピッチ登壇と出展合わせて40件以上登録（展示も含めて優勝者に対する副賞を検討中）

■AIと知識創造によるスタートアップ創出をテーマとしたNINEJPパネルディスカッション

（モデレーター）谷本有香 Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長
(パネル)

松尾豊教授（東大）

夏目 健一郎 (WIPO 事務局長補)

Saskia Steinacker (Chief Digital Officer, Springer Nature)
Jon Metzler Lecturer UC Berkeley Haas)



項目② 海外拠点の高度活用

項目②推進 KSAC (主幹: 京大) / WG1リーダー

海外との事業提携や海外投資を受けるための支援機能を提供し、各拠点の有望シーズに対するグローバル展開を支援する。

1

海外の主要地域における
拠点機能の高度化
KPI: FY2025までに4拠点

FY2025までに**Silicon Valley, Boston, New York, Singapore**に拠点を設置。現地支援基盤の拡大として、NY在中の日系現地企業と連携し、情報交換を開始。今後のNINEJPとの連携策を議論。また6月と11月にNINEJPの周知イベントを実施するとともに、日本からの海外派遣プログラムのサポート等を実施。今後、アジア、欧州、豪州の拠点設置も検討。拠点を通じ、日本の大学シーズの事業化に関心のあるVC等との連携、人的NWの構築、スタートアップ動向や投資関連情報の収集、全PFでの活用を進める。

2

グローバルクラスの
イベント出展、ピッチ参加
KPI: 年3回の出展数を確保

2025年1月**Singapore**（参加申込415名、マッチング申込157件）、2025年6月**BIO International Convention@Boston**（海外インキュベーターや海外大手製薬会社との連携によるサイドピッチイベントも開催）、2025年9月**Global Startup EXPO 2025@大阪万博**（パネルセッション、サイドイベントでのブース出展）を実施。今後も効率的・継続的な参画を目指し、支援体制の整備拡大を進める。

3

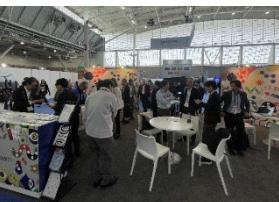
海外投資家・事業会社向けのピッチ
トレーニング支援とピッチイベント
への登壇機会・支援の提供

2025年2月にライフサイエンス領域を中心としたBoston, New Yorkでのトレーニングプログラムを開催。ボストンの最大手インキュベーターであるBiolabを中心に、プロジェクトのブラッシュアップを実施。参加者アンケに伴う改善点を反映し、取り組み拡大へ。

4

海外向けオンラインシステム
「Made in Campus」の立ち上げ
→ [アクセス](#)（登録・利用は無料）

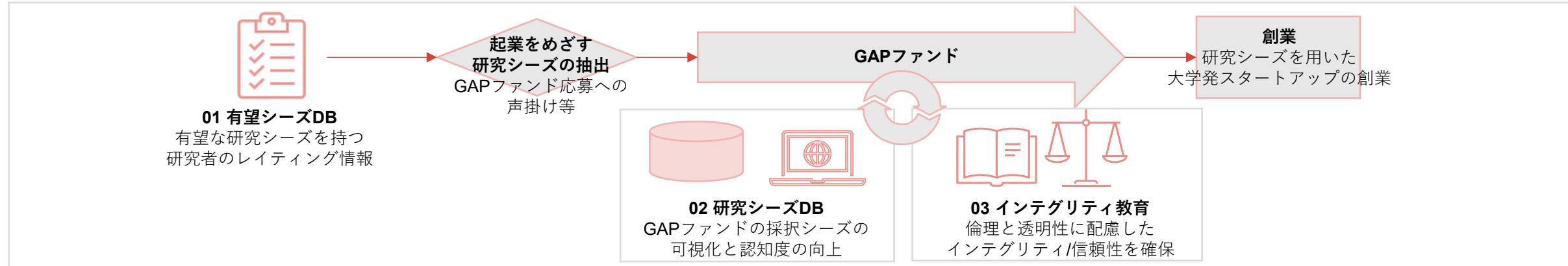
海外紹介向けオンラインシステム「Made in Campus」を開始。2025年6月のBIO International Convention@Boston、2025年10月のBioJapan@横浜のピッチイベント、ブース紹介等に合わせて、研究シーズ／大学発スタートアップの登録を促進。VC等とのコミュニケーションツールを確立。ライフサイエンス以外へ拡大を検討。



項目③ 起業を目指す研究シーズの情報共有の仕組みの構築・維持管理

項目③推進 Tongali (主幹: 名大) / WG2リーダー

研究シーズの活用と起業環境の整備による社会実装の加速にむけ、シーズの発掘と情報共有、インテグリティ教育を進める。



01

スタートアップ起業に
有望な研究シーズDBの構築
KPI: レイティング 5万件

研究者の論文、特許、グラント、ネットワークデータをインプットとして、名大スパコンを用いた分析を行い、有望な研究シーズを有すると想定される**研究者のDB**を構築。2024年度にTongaliの機関に所属する研究者を対象にプロトタイプを構築。2025年度は9PFのDBを構築予定で、既に5PFは構築済み。GAPファンドの案件発掘にあたり、アプローチする研究者を効率的に選定する仕組みとしての活用を促進。

02

GAPファンドプログラムに採択
された研究テーマの情報共有
KPI: DB件数 1,000テーマ
KPI: アクセス数 年増120%
KPI: 記事(動画)掲載 20件

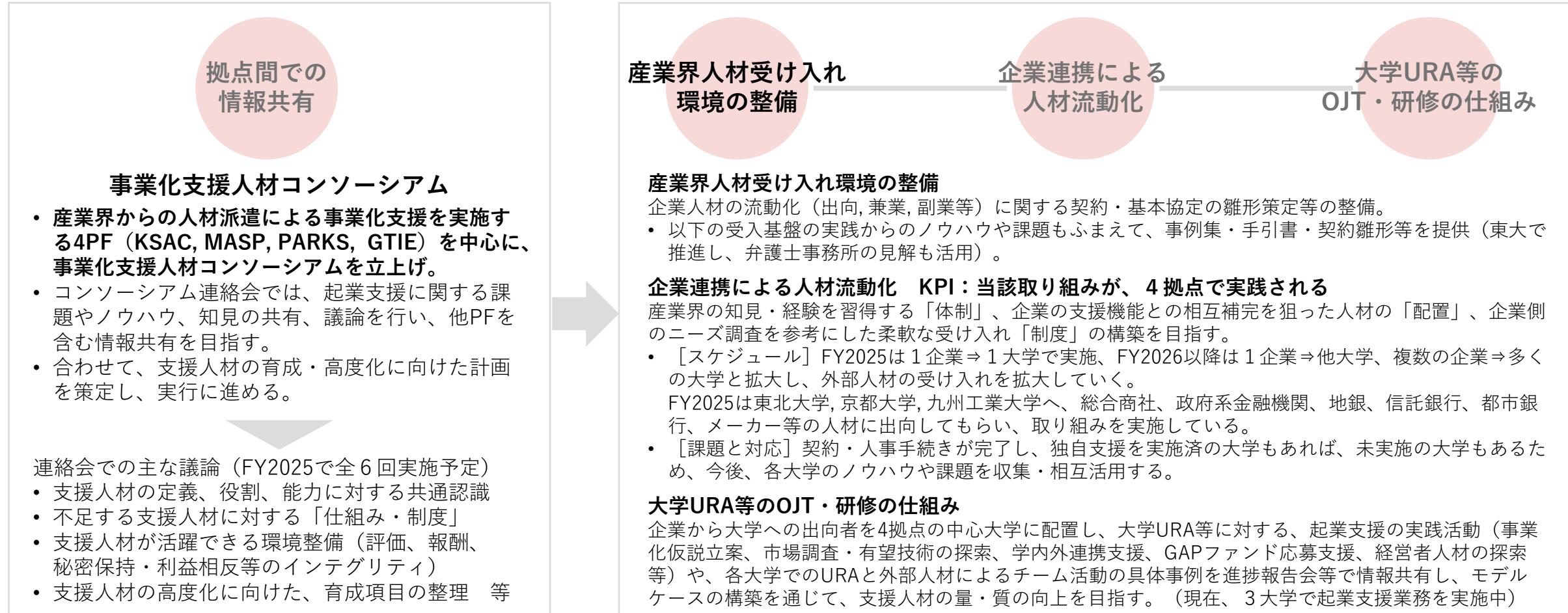
GAPファンドプログラムのチーム形成、海外アクセラレーションプログラム研修、事業化推進機関とのマッチング等の効率的な実施にむけて、採択シーズDBを構築する。**DBで公開可能な内容をWebで公開し、顧客開発・協業促進など社会実装につなげる。**有望なシーズのインタビュー動画等を掲載し（6件作成中）、周知促進する。AI活用した、研究シーズを用いた創業の成長シナリオ（技術シーズ×有望産業分野）の作成も検討。2025年度はデータ要件まで行い、2026年度から具体的なシステムの開発検討に入る。

03

スタートアップ起業のための
インテグリティの提案
KPI: 当該教育の周知と提供

起業環境の透明化を進め、大学発スタートアップの成功と信頼を築くため、**スタートアップのインテグリティの確保**に向けたアクションモデルの作成、研修会やeラーニングの実施により、全拠点に対する周知活動を推進していく。研究セキュリティに対するデューデリジェンスはStrider Technologies, Inc.で実施し、NINEJPのリスクセキュリティ懇談会やワンストップ窓口とも連携するなど、高度な環境整備を進める。

グローバルに活躍する大学発スタートアップ創出に向けた環境整備として、事業化支援人材の育成と流動化を促進するため、拠点間での情報共有、契約雛形等の整備、企業連携による人材流動化、大学URA等のOJT・研修の仕組み等の構築を進めている。



グローバルに活躍する大学発スタートアップ創出に向けた環境整備として、各拠点の経営者候補人材をリスト化し、拠点間で共有できる仕組みを構築。人材募集とGAPファンドの採択シーズとのマッチングを促進し、当該人材の活性化に寄与する。



KPI : 2027年度までに、拠点間で活用可能な経営者候補人材を20,000人確保。

実施内容

[1] 各拠点の経営者候補人材リストと拠点間で共有できる仕組みの構築（2025年公開）

- PARKSの九大OIPが事業者となり、外部事業者に構築/運用を委託。
- 経営者候補人材の登録情報の第三者提供先（開示と複製、法人会員）は以下。
 - ①拠点の主幹大学
 - ②拠点の主幹大学の責任下にて、拠点のその他構成大学等（閲覧情報に制限）
 - ③拠点の主幹大学の責任下（情報管理の契約必須）で、GAPファンドプログラムにおける、拠点の連携先である人材紹介会社・VC等（自社リスト取込は不可）
- 経営者候補人材は、反社チェック、情報管理等の確認と同意を行い、申請。
- 拠点の主幹大学は、人材の申請内容を確認し、登録を認める。
- 事業者は、自身が所属する拠点以外の情報へのアクセス権は有しない。
- 外注先は、本事業以外の目的で、他DBとの突合等も含めて情報を利用しない。
- 検討事項：海外人材の誘致・登録は、経済安全保障の観点等も踏まえて検討。

[2] 経営者候補人材の募集及びギャップファンド採択者等とのマッチング

DB/Webサイトにマッチングのツールもあるが、人材DBから候補者リストを検索し、候補人材へコンタクトするなど、マッチング方法は各拠点が選択。項目⑤の予算の一部は各PFに配分しており、集客（人材登録）やマッチングを促進。

[3] 経営者候補人材DB/リストの活性化

各拠点の人材マッチングの成功事例や失敗事例などを題材としたセミナー等、イベントを通じた知見の共有を進める。将来的に自治体や地元企業を含む受益者が参加する、持続可能な仕組み（自立化の試み）にしていくための周知活動も進める。

これまでの実施内容：2025年5月のPARKS DemoDay

[参考] 経営者候補人材に関する情報共有の仕組み

大学発スタートアップで、CxOを目指せ。

STARTUP UNIVERSITY

本サイトの事業内容 案件の紹介 大学PF 応募の流れ よくある質問 案件一覧 参加申請

「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」は、大学等発スタートアップの創出にボンジールの異なるシーズを全国から引き出し、国際市場への展開を含め、大学等発スタートアップの創出に向けた取組について質量とともに充実させることとともに、大学等発スタートアップの継続的創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムを、参画機関を拡充しながら形成する活動を支援します。

マッチング実績のある過去案件例

PARKS(パークス) 新規事業企画/事業企画

【42名募集】九州・沖縄・山口の大学発スタートアップでCxO ! (9/15中)

□ 応相談 ○ リモートワーク中心

PARKS(パークス) 新規事業企画/事業企画

【半導体ベンチャー】創出を支援するプロジェクトCxO募集! ~社会を支える半導体分野で新価値創造~

□ 応相談 ○ 応相談

PARKS(パークス) 新規事業企画/事業企画

【環境系】ベンチャー創出を支援するプロジェクトCxO募集! ~研究技術による社会課題解決に挑戦~

□ 応相談 ○ 応相談

PARKS(パークス) 新規事業企画/事業企画

【宇宙航空系】ベンチャー創出を支援するプロジェクトCxO募集! ~注目領域で新価値創造に挑戦~

□ 応相談 ○ 応相談

PARKS(パークス) 新規事業企画/事業企画

【ロボット・AI】ベンチャー創出を支援するプロジェクトCxO募集! ~最新技術で社会や産業を変革~

□ 応相談 ○ 応相談

PARKS(パークス) 新規事業企画/事業企画

【バイオ】ベンチャー創出を支援するプロジェクトCxO募集! ~医療を革新する技術の社会実装に挑戦~

□ 応相談 ○ 応相談



大学発スタートアップCxO参加申請フォーム

下記の設問に必要事項を記入し参加申請下さい。ご記載内容を確認し、本登録のご案内をお送りいたします。

お名前 **必須**

姓 名

山田 太郎

お名前（フリガナ） **必須**

セイ メイ

ヤマダ タロウ

生年月日 **必須**

1980 年 -- 月 -- 日

性別 **必須**

男性 女性

その他 無回答

電話番号 **必須**

09012345678

文字数 20文字以内

現在の文字数 0

絞り込み条件

プラットフォーム名

- HSFC(エイチフォース)
 - MASP
 - GTIE(ジータイ)
 - IJIE(アイジー)
 - TeSH(テッシュ)
 - Tongali(とんがり)
 - KSAC
 - PSI
 - PARKS(パークス)

検索

項目⑥ PF内外のコミュニティ形成・維持

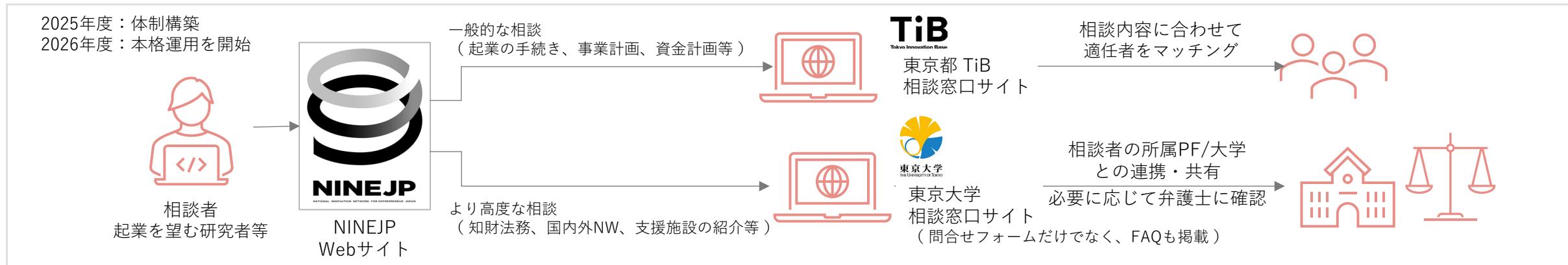
項目⑥推進 MASP（主幹：東北大）／今年度のWG4リーダー

諸活動を通じて、地域における起業コミュニティの形成を促すとともに、各地域のコミュニティを全国レベルで接続し、かつ既往の分野別コミュニティとの接続を図るとともに日本のスタートアップコミュニティ全体の底上げと国際化を図る。

1. 多様な参加者を呼び込むイベントの開催	<ul style="list-style-type: none">今年5月、Sushi Tech Tokyo 2025にて、NINEJP×東京都でのパネルディスカッションを実施。大学発SUとその支援関係者に限らず、自治体、金融機関等、多くの方にディスカッションを参観頂いた。PFでは地域特性を活かした自治体等との連携イベントにて、他地域を含めた多様な関係者に、PF及びGAPファンド採択者のPR活動を推進。
2. インクルーシブなコミュニケーションプラットフォームの導入	<ul style="list-style-type: none">NINEJPでのコミュニケーションを円滑に行うため、ツール（slack）を構築。KSACでは、現地イベント参加の有無に関わらず、グローバルに研究シーズやSUの紹介等が可能なMade in Campusを他PF・機関に展開。
3. メンター制度の充実	<ul style="list-style-type: none">今年10月、BioJapan@横浜にて、全国カンファレンスを実施予定。ピッチに登壇する研究シーズや、大学発SUに対して、事前に審査員とのコミュニケーションの機会を設定し、ピッチ準備をブラッシュアップを実施。アンケ等をふまえた改善点を踏まえて、知見を今後に活用。PSIではBio Internationalにおいて国内メンターによる海外投資家等との面談を実施(16社)するなど、各拠点でのメンター制度の利用も促進。
4. 多様なバックグラウンドを持つリーダーシップの育成	<ul style="list-style-type: none">WG0では、グローバルなコミュニティやネットワークを活用し、女性やマイノリティ、国際的な起業家とのネットワークを構築し、プラットフォームに連携することで、多様な視点や経験を取り組むように取り組む。
5. 地域外との連携や交流	<ul style="list-style-type: none">今年5月、SusHi Tech Tokyo2025にて、東京都とNINEJPとの連携協定を発表。連携加速へ。WG0は、アドバイザーボードの設置に合わせて、国際的なスタートアップコミュニティとの連携を加速。PFでは、地域自治体等と連携したグローバルSUイベント開催、全国PFと連携した全国DEMODAY開催、全国PFと連携したコミュニティイベント開催、PF内のエリア別イベントの開催等、新しい取組みにより他地域や海外コミュニティとの連携活動を推進。
6. 多様性を重視した採用やパートナーシップ	<ul style="list-style-type: none">今年6月、BioInternationalに合わせて、NYにおいて、NINEJPの活動内容説明会を実施。在米の起業支援コミュニティへの働きかけを行った。拠点では、海外リエゾンの設置、Bio Internationalを活用した海外メンターのメンタリング支援の実施等、海外パートナーシップを形成することによりコミュニティの多様性を推進。
7. アルムナイネットワークの充実、活性化、活用	<ul style="list-style-type: none">HSFCでは、既存の同窓会の情報共有に加え、“北大卒の経営者”との意見交換を通じて、スタートアップ創出支援の協力体制の構築を推進。WG0では、HSFCが検討する、アルムナイとシーズ等の連携による創業活性化について、HSFC北大の在米アルムナイ・コミュニティとの連携を支援。この取り組みを、ベストプラクティスとして整理し、他PFへ展開することを視野に、HSFCとWG0との連携加速へ。

各PFのコミュニティ形成事例が蓄積されつつあり、成功事例や検討課題等を紹介/共有するミートアップを実施（2026年1月） KPI：ミートアップ年1-2回

起業の手続きや事業計画等の相一般的な相談は東京都TiBの窓口と連携し、より高度な相談（知財法務、国内外ネットワーキング、支援施設の紹介相談等）に対応する窓口を東京大学に設け、ワンストップ窓口として、創業の支援環境を整備する。

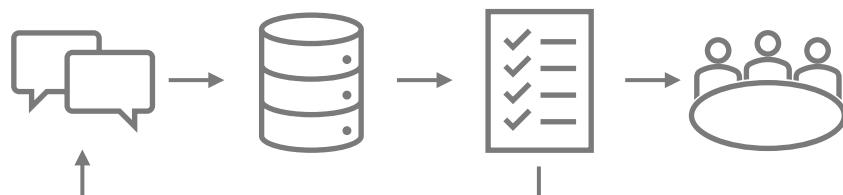


■ ワンストップ窓口の取組み概要

- 起業に関する情報提供は、地域に限らず都市部でも不十分なケースがある。ワンストップ窓口は「相談先のない研究者等への対応」と「相談データの収集・蓄積・把握・活用」の2つを目的とし、最終的には自立化を目指している。
- 相談内容や頻度、件数は現時点では不明であるため、試験運用で状況を把握し、結果を基に、本格運用における機密情報や個人情報の対応を含むデータ構造、システム要件・仕様、運用体制を、事業後の自立化も視野に入れて進める。
- 相談に至る過程は、相談内容の言語化が困難なものなど様々なケースが想定される。TiB、東京大学および各大学が連携および課題共有し、必要に応じてTMI総合法律事務所とも相談しながら協調的に対応を行う。

■ 相談内容からノウハウや課題を見出し、ナレッジシェアへ。

- 相談内容とその回答方針はサーバーに蓄積され、標準化した高頻度な質問と答えは、相談窓口のウェブサイトにFAQとして掲載し、相談者が問合せ前に自身で確認できる仕組みとする。
- 相談対応のノウハウや課題は連携大学間で情報共有を促進する。
- 今後、WG2／項目②で進める、インテグリティ教育のガイドライン等とともに連携を検討し、起業環境の透明化にも努める。



[参考] ワンストップ窓口（より高度な相談）

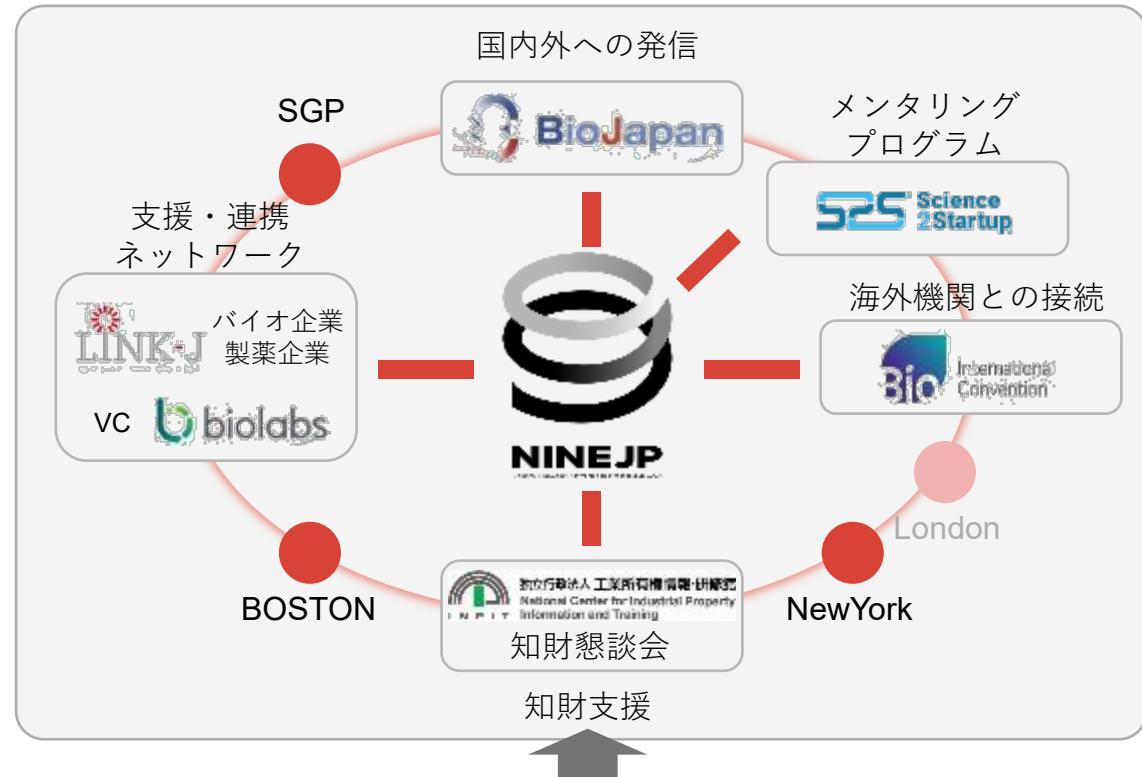
もくじ

1. NINEJPの事業とは
2. NINEJPの活動概要
3. 今後の方向性とエコシステム形成・自立化に向けた課題
4. 形成したエコシステムから大学に還元されるしくみの構築
5. 結論

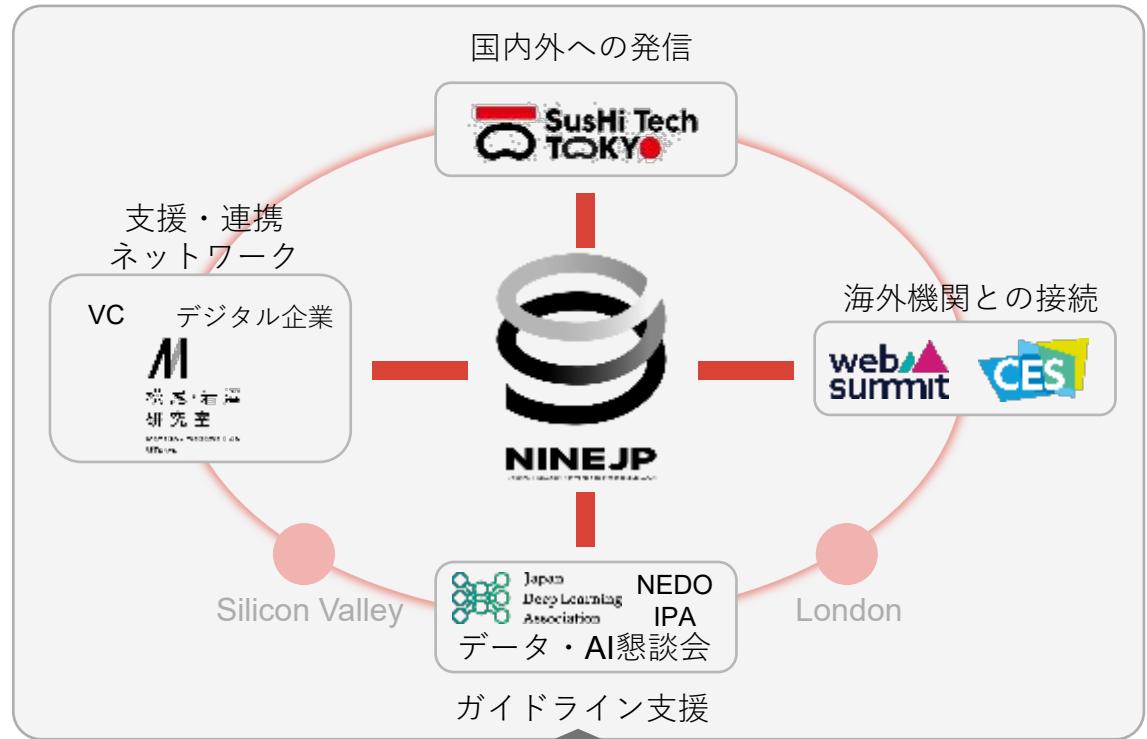
分野別支援スキームの構築

- ✓ 自走に向けた、外部連携機関との接続による研究・事業分野別の効果的な支援スキームを構築
- ✓ “Global Startup Campus”プログラム提供者等、エコシステムに必要な外部団体との連携を強化

バイオ・ライフサイエンス



データ・AIサービス



Conference · Event



Acceleration Program



Mentoring / HR Support



その他外部団体との連携例（順次追加）

分野別支援スキームの構築イメージ

		具体的な実施・検討事項	外部連携の例
バイオ・メディカル		<ul style="list-style-type: none">全国NWピッチの副賞としてNature Onlineへの掲載バイオ・メディカル分野のUKネットワーキングへの派遣ICLとの連携による女性起業家アクセラレーションThe MedTech Conference 2026の活用	Biocom、UKネットワーク Imperial College London等
データ・AIサービス		<ul style="list-style-type: none">全国NWピッチの副賞として著名誌への掲載シリコンバレーAIネットワーキングやWeb Summitへの派遣	SVネットワーク Web Summit
社会課題 Impact Startups		<ul style="list-style-type: none">『WE ATチャレンジ』を対象として、社会課題のとらえ方を広げるためのメンタリングプログラム	(社)WE AT 中小機構
アグリ・フード		<ul style="list-style-type: none">欧州エコシステム／ネットワーキングへの派遣海外アグリフードイベントとの接続、派遣	HSFC,Tongali,PSIがアグリバイオ分野で拠点連携を開始
AIセキュリティ 宇宙／半導体		<ul style="list-style-type: none">(Dual Use分野の特性を踏まえ) “Cross U”やRISE A“等に加え、UCB等との連携プログラム	(社)cross U (社)RISE-A University of California,Berkeley
タフテック		<ul style="list-style-type: none">海外機関との連携による支援スキーム	The Engineを候補として検討

分野別支援スキームの一環として懇談会を実施

1. 知財懇談会

懇談会名： 知的財産懇談会

活動内容： 大学等発スタートアップ創出の強化に向けた知的財産活動に関する情報提供、意見交換及び意見集約等

2. バイオ・メディカル懇談会

懇談会名： 国内外におけるバイオ・メディカル分野支援体制の構築

活動内容： 1. バイオ・メディカル分野の国内外へのプロモーション方法
2. 起業前後の事業化支援の課題（知財支援、マッチング等）
3. バイオ・メディカル分野のアドバイザー選定

3. リサーチセキュリティ懇談会

懇談会名： セキュリティに関する懇談会

活動内容： 大学等発スタートアップ創出の強化に向けたリサーチセキュリティに関する情報共有、意見交換及び意見集約等（大学リサーチセキュリティコンソシアムとの連携）

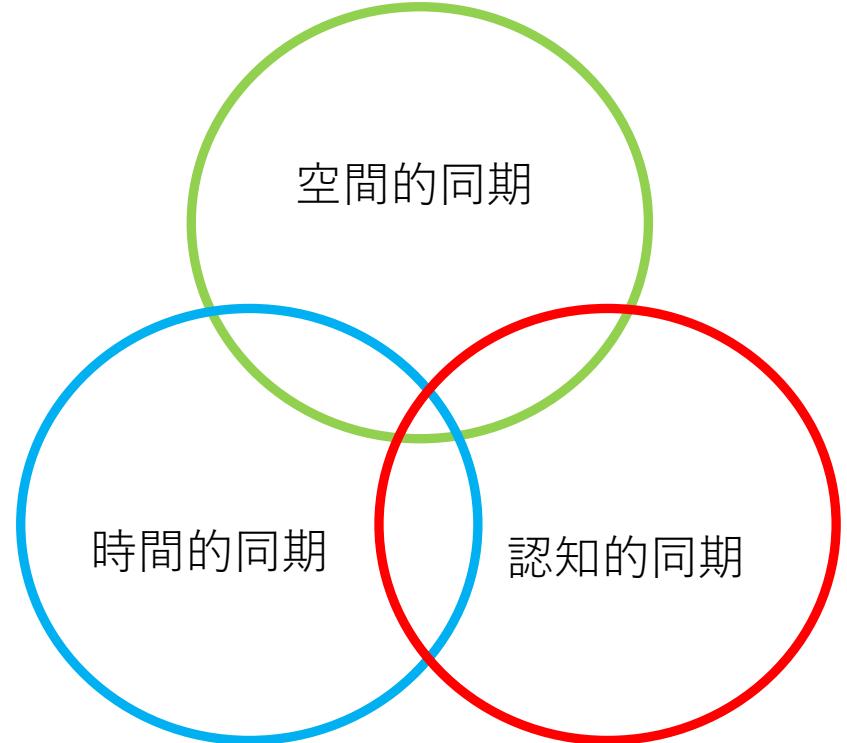
4. AI関連懇談会

懇談会名： データ・AIを活用した国内外における社会課題解決およびコミュニティ形成

活動内容： データ・AI関連の研究成果を活用し、国内外の社会課題解決やコミュニティ形成等の推進における情報共有、意見交換及び意見集約等。

NINEJP事業による3つの同期とその手法

バイオ、AIなどにみられる、研究とSUによる社会実装が同時に生じる傾向が強まること（リニアモデルではない）で、この**3つの同期が不可欠**になっている



NINEJPが提供しているもの

投資につながる要因	機能を担うもの
空間的同期	9拠点（自治体+地域エコシステム）と全国のつながり
時間的同期	イベント、キャラバン、集中支援
認知的同期	分野別支援、知財・セキュリティ懇談会

第1世代：個別支援型START等優れたシーズを支援（構造は残らない）

第2世代：拠点型COI、地域エコシステムの構築の仕組み（地域の構造構築であり全国に波及しない）

第3世代：ネットワーク型（NINE-JP）点と点を結び、3つの同期が内包される全国レベルの「構造」として残ることが期待できる

「構造」を残すための地域における活動と全国ネットワークの接続



地方拠点の有望シーズを発信
NINEJPの全国カンファレンスにて
(BioJapan)、研究シーズ部門は、
TeSHのJAIST都英次郎教授が最優秀
賞を受賞。Natureで特集も公開。

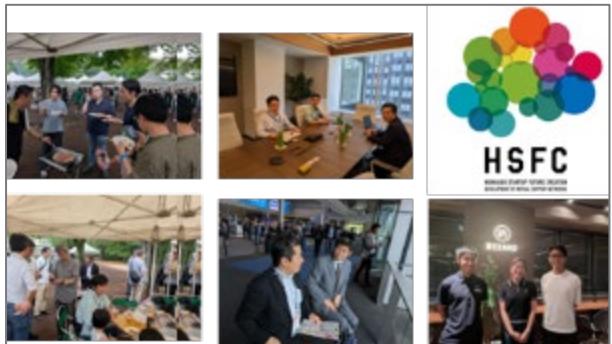


CxO候補人材を首都圏から地方へ
自治体と連携し福岡CXOバンク
(CxO候補人材マッチングサイト)
を展開するPARKS九大が、全拠点参
画型のサイトを構築(2026.3公開)。



東京都との連携

起業の知見やネットワークを有する
東京都と協定を締結し、GTIE東大と
東京都TiBにて、起業相談のワンス
トップ窓口を開設(2026.3公開)。



大学アルムナイとの連携

HSFC北大は北大ジンパ等の同窓会
の情報共有に加え、北大卒の経営者
をネットワーク化し、広報、人材発掘、
イベント企画の協力体制を構築。



分野別での拠点間連携の取り組み
HSFC, Tongali, PSIがアグリバイオ分
野で拠点連携を開始。HSFC主催
「SHAKE H」で連携イベントを開催。
パネルとピッチ、ブース出展を実施。



KSACの地域連携の取り組み
KSACは産学官金から98機関が参加。
新事業創出、創業支援、海外展開の知
見を有する公益財団法人大阪産業局
が事務局を担い、大学発SUを創出。



TeSHの地域連携の取り組み
北陸3県が結束し、福井、富山、金沢、
東京とTeSH主催イベントラリーを行
う等、自治体・地方銀行・地域中核企
業も巻込み、大学発SUを創出。



HSFCの地域連携の取り組み
アグリフード等を重点領域に定め、
自治体や金融機関の事業化支援プロ
グラムと連携し、オール北海道での
シーズ発掘・伴走体制を構築。

課題

(全体的な課題)

- NINEJPの事業はスタエコ共創ギャップファンドのみに紐づいているため予算が使いにくい(ギャップファンドの外のシーズやスタートアップのエコシステムとの接続がむつかしい)
- 大学、拠点、全国ネットの3層構造であり事業構造が複雑すぎる(160機関のシーズの把握の持つかしさ、現場から見た構造の理解しにくさ)
- 各拠点のコミュニティの多様性が小さい(特にジェンダー、外国人)
- 法人格がないことで生じるガバナンス上の問題(現在はその事業を担当する大学法人の責任として分担)
- わずかな期間ですべての事業の自立化は困難(特に横断的事業は誰が担うのか)

(テーマ別の課題)

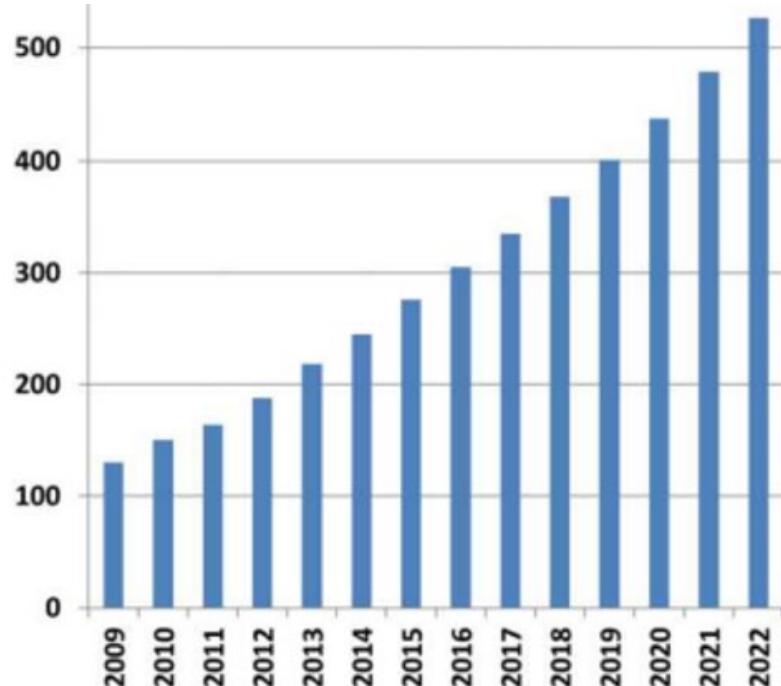
- 知財に関してはそもそも出願費用がない
- Dual Use技術の取り扱いが困難
- 「研究シーズDB」「経営者候補人材DB」「支援人材」は関連性が高くデータ連携すべき
- バイオ医薬などはモダリティごとに支援を考えたほうが良い(分野別支援の精緻化)

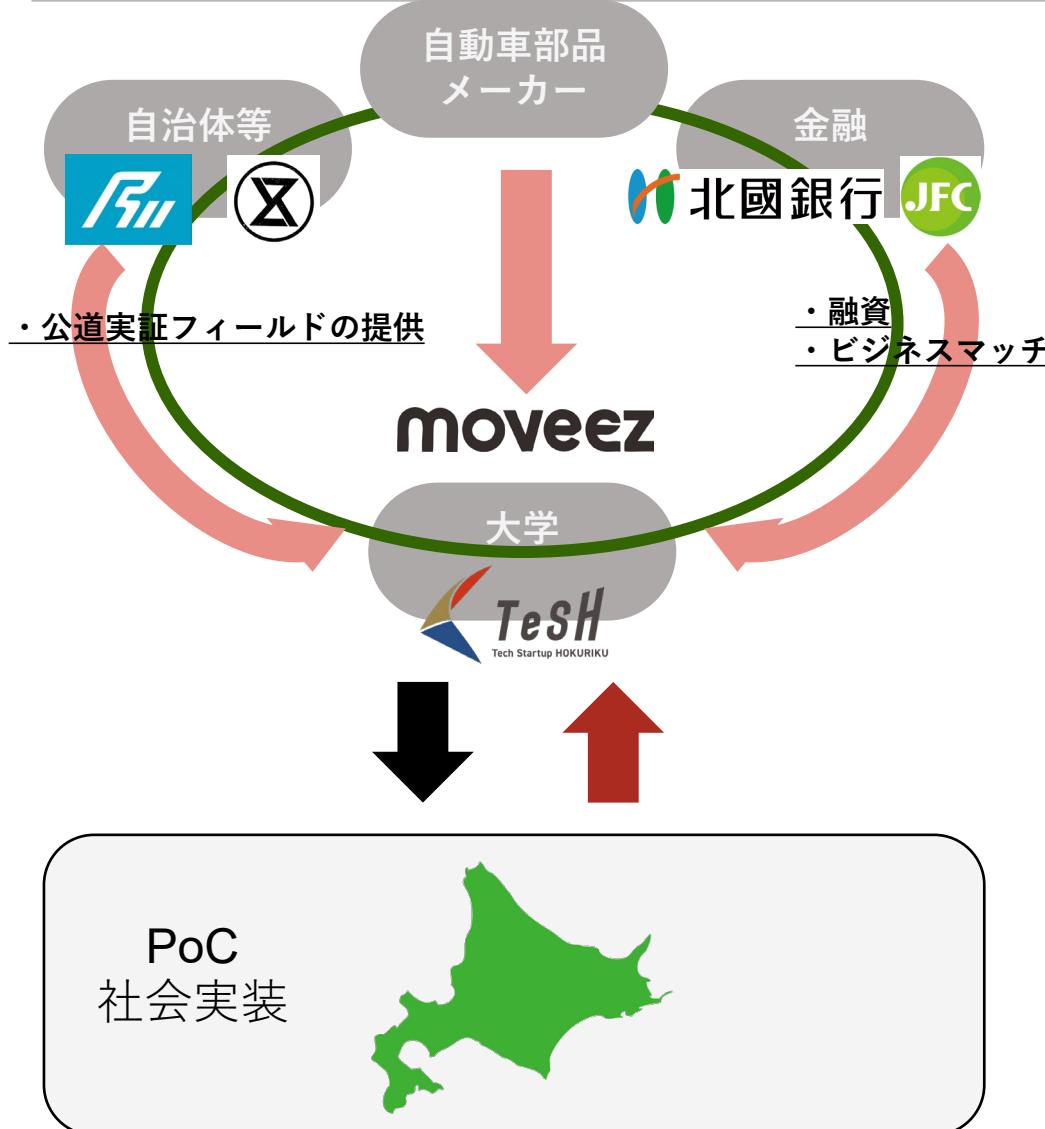
→ これらを解決しつつ、エコシステムの自立化を図ることが求められている

もくじ

1. NINEJPの事業とは
2. NINEJPの活動概要
3. 今後の方向性とエコシステム形成・自立化に向けた課題
4. 形成したエコシステムから大学に還元されるしくみの構築
5. 結論

(参考) 東京大学の事例を経験として: 大学への還元プロセス





■株式会社ムービーズ ■ moveez

金沢大学の自動運転技術を元に設立された「金沢大学認定ベンチャー」

<自治体・民間の関与>

- ・ 珠洲市：2015年～公道での実証実験フィールドを提供
「場所」と「予算（実証費用）」を全面的にバックアップ
- ・ 日本政策金融公庫・地元地銀: TeSHと連動し、融資等を実施

<大学への還流>

- ・ 資金（共同研究費・寄附）：実証実験を通じて※自動車部品メーカーとの金沢大学の大型共同研究に発展 ※アイシン／デンソー／Panasonic／三菱電機)
⇒数億円規模の外部資金が大学に流入
- ・ 人（志願者・教育の質）：金沢大学に「自動運転」ブランドが定着
⇒工学系学類の受験倍率～学生の質の向上

○ティア1企業との「共同研究」への発展

ムービーズが自治体と連携して公道走行のノウハウ（地図作成やセンサー調整）を確立したこと、アイシン、デンソー、パナソニックといった日本のトップクラスの自動車部品メーカー（ティア1）や、三菱電機などの電機メーカーが、金沢大学との**「組織対組織」の共同研究契約**を締結しました

○大学への還流

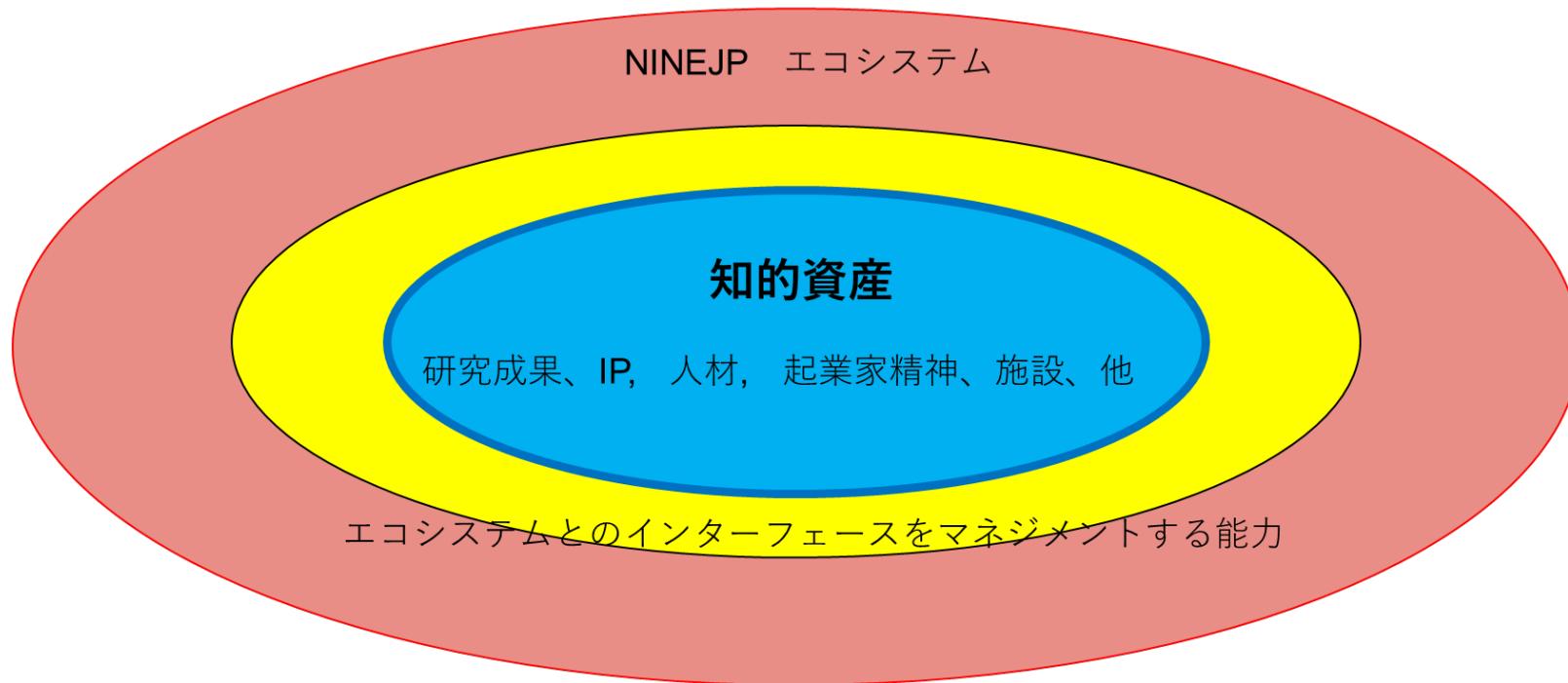
単発の受託研究ではなく、数年にわたる「包括的連携」となるため、1社あたり年間数千万円～、複数社合わせると累計で数億円規模の外部資金が大学（高度モビリティ研究所）へ還流

○外部資金の使途（大学への再投資）

この資金は、

- ・ モノ 最新のGPUサーバーや計測用車両を獲得
- ・ ヒト 優秀な博士課程学生をリサーチ・アシスタントとして雇用

エコシステムから大学に還元されるメカニズム



- エコシステムが整備されれば、大学発のスタートアップ創出や企業連携の進展が期待でき、その結果知的財産収入や共同研究収入を通じて大学へ還元される。
- エコシステムが発展するほど、大学への外部資金流入や教育・研究環境の高度化につながりえる。
- しかしそのためには、大学がスタートアップエコシステムに貢献できる研究成果や知財、起業家精神を持つ人材などのアセットの充実が必要
- 加えて特許ライセンスなどの契約、SU創出に向けた企業との契約、施設利用サービスといったエコシステムに接続する大学のマネジメント能力の確立が不可欠（大学が主体的にエコシステムに関与、活用できる体制構築が重要である）。

もくじ

1. NINEJPの事業とは
2. NINEJPの活動概要
3. 今後の方向性とエコシステム形成・自立化に向けた課題
4. 形成したエコシステムから大学に還元されるしくみの構築
5. 結論

結論：今後のポイント

1. NINEJPスタートアップエコシステムの自立化

エコシステム形成における課題（32ページ掲載）の解決のうえで自立化を図ることが必要。このため**地域拠点**においては自治体・企業・金融機関・大学が連携し、持続的循環を構築するとともに、**全国組織**として分野別支援・基盤維持を行い、民間と共同で下支えすることが重要

2. エコシステムの効果

このようなエコシステムが持続的に発展することによって

一次効果：産業振興・雇用創出（地域振興）、大学の社会貢献の実現

二次効果：優秀な学生・研究者の大学集積による大学の競争力向上

→ただし、大学が**能動的に関与**しなければ大きな還元は生じない

3. 大学への還元

エコシステムから大学への還元を確かなものにするため、

①エコシステムに必要な**大学のアセット**（研究成果、IP、人材、起業家精神、施設、他）を充実させること

②それらを提供する際に必要な**エコシステムとの接点を担うマネジメント**の確立

が必要

（例）特許出願・国際出願を行わなければスタートアップが利用できない（知的資産の充実）、有効な契約ができなければ収益は戻らない（インターフェースマネジメントの充実）



NINEJP

NATIONAL INNOVATION NETWORK
FOR ENTREPRENEUR JAPAN